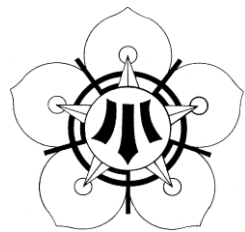


地域と家庭と学校が一つになって子供を育む…それが“チーム七小”です！



くさぶえ

福生第七小学校ホームページ

<http://fussa-7e.hs.plala.or.jp/>

福生市立福生第七小学校

令和5年度 学校だより

発行責任者

校長 山岸 史子

所在地

福生市北田園一丁目1番地1

令和 5年5月1日 発行

ほめる・認める＝価値付ける ⇒ めざす姿が見えてくる！

校長 山岸 史子

新しい学年に進級して一ヶ月が過ぎました。1年生もすてきな笑顔で挨拶をしながら、登校してきてくれます。6年生が朝の支度や休み時間の遊び、掃除のお手伝いまでこなし、1年生を優しくサポートしてくれています。5年生は委員会活動が始まり、6年生のリードを受けながら学校のみみんなのために、一生懸命働いてくれています。どの学年の子も、福生第七小学校という社会の一員として、きまりを守って、仲良く楽しく学校生活を送れるよう頑張っています。

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、保護者会や学校公開等、お忙しい中ご来校くださりありがとうございます。また、授業の感想やご意見などもお寄せいただき、大変励みになります。この3年間、様々な制限の中でご覧いただける機会が少なかったのですが、今年度は以前のように参観していただけるよう予定しておりますので、ぜひお越しください。そして、ご自身のお子さんと同時に、お子さんと関わる仲間たちの実際の様子もご理解いただけると嬉しいです。

さて、この一か月間で、どのくらいお子さんのことを褒めたでしょうか。褒めるというのは難しいもので、つつい、もっとこうしてほしいとか、こうしてもらっては困るとかの方に焦点を当ててしまうものです。褒めたいポイントがあっても、そちらはわりと心の中で「よし」とスルーしてしまいがちです。私は忙しいとき、自分に余裕のないときがそうなりやすいと認識しています。人によって、理由は異なるかもしれませんが、でもその為に、子どもが成長できるチャンスを逃してしまうのはもったいなさすぎます。

いいね、すごいね、頑張ったね、でもいいのです。もっと踏み込めれば、丁寧に書いていてすごいね、かかとをそろえて靴を置けたね、最後まで自分で用意できたね、よく見て読むことができたね、相手の気持ちを考えて優しくできたね…のように、子どもができた具体的なすてきな姿をそのまま言葉にして伝えられれば最高です。子どもは、何がいいと褒められた・認められたのかが分かります。

子どもの「価値観」は、身近にいる大人の言動や、自分に対しての評価によって組み立てられていきます。同じ内容を伝えていくのなら、「～しない・してはだめ」より、「～しているのいいね・～できるのはすごいね」とプラスの伝え方を増やしていきたいです。

ルール、きまり、規則は、禁止事項が書かれるものですが、日常生活の中では、望ましい姿の方をイメージできるようにしてあげたいものです。

子どもは親に、認めてほしい、好きでいてほしい、大切にしてほしいと、本人も気づかぬところで思っているものです。頑張っていることや努力を、とことん褒めてあげてください。そして、それによって得られた成果と一緒に喜んであげていただけたらと思います。